



弘前大学広報誌

# 学園だより

October  
2020

Vol.199

Hakuna Matata

特集

## 新学期を迎えて

巻頭言02

特集 新学期を迎えて04

研究室紹介24

新任教員紹介26

けいじばんコーナー29

編集後記30

# 予測困難な 未来を 生きる 強さを



弘前大学長  
福田 眞作

2020年度の新入生の皆さん、弘前大学へのご入学、誠におめでとうございます。とはいえ、皆さんが楽しみにしていた「出会いの春」は、入学直前に新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）という地球規模の危機に直面したことで、一変してしまいました。他の多くの大学と同様に、入学式をはじめとする新入生に関する全てのイベントが中止され、授業もこれまでの「対面授業」に代わって急遽「メディア授業」が導入されました。すべては皆さんの健康を第一に考えたうえでの判断ですので、どうかご理解くださるよう、お願いいたします。さて、パソコンと向きあう一人だけの空間で数ヶ月間を過ごした皆さんは、「私（僕）は今、何をしているのだろう？大学生になったという実感が全く湧かない・・・」といった大きな不安と焦りを感じていることでしょうか。コロナ禍の真っ只中にある今だからこそ、予測困難な未来を生き抜くために必要なものは何なのか、一緒に考えてみたいと思います。皆さんの4～6年間の学びや学生生活の一助となれば幸いです。

今回の新型コロナへの対応を陣頭指揮して改めて

確信したこと、それは予測不能な混沌とする未来を生き抜くために、皆さんに備えて欲しいものの一番は「チームで働く（動く）力」だということです。学生と教職員のウイルス感染のリスクを回避して健康を守ること、コロナ禍にあっても学生の学びを継続させること、この二つの目標を実現する手段としてメディア授業の導入を決定しました。皆さんの通信環境やパソコンの保有状況、教員側の通信環境、授業を実施するにあたって必要なシステム等の決定、利用に関するアナウンス、そして操作説明やトラブルシューティングなど、たくさんの課題が浮き彫りとなりましたが、誰も経験したことのない状況のなか、教職員全員がチームとなって必要な情報を収集し、そこから出された的確な提案をもとに解決策を迅速に決定することができました。本学で初めてのメディア授業が計画通りにスタートし、前期の授業は大きなトラブルもなく終了しました。まだまだ改善の余地はあるものの、「学びを止めない仕組み」を確立することができた一番の立役者は、もちろん本学の学生の皆さんです。本学の決定に理解を示し、チームの一員としてメディア授業に真剣に向き合っ

てくれたことに感謝しなければならないと思っています。なかでも、普通の授業や大学生活を全く経験していない新入生の皆さんが、想像を絶する困惑の中にありながらも、必死にチームに加わって、授業を継続してくれたことに特に敬意を払いたいと思います。そして、この数ヶ月間の経験を通して、皆さんは「チームで働く（動く）力」の基礎をすでに身につけたと私は確信しています。

新型コロナは、全国の大学生の生活にも極めて深刻なダメージを与えました。アルバイト収入の激減や保護者から仕送りの減少に伴い、本学においても経済的に困窮する学生が増加しました。それは、新入生も例外ではありません。学生が経済的な理由により修学を断念することなく、安心して学業に専念できるように支援するため「弘前大学修学支援基金」を新設したところ、本学の教職員のみならず、全国の本学卒業生や地域の個人・団体から、多額の善意のご寄付を頂きました。「100円夕食」、「プレミアム食事券の発行」および「学生教材費支援金の支給」などは、そのご寄付が原資となっています。学生の皆さんには、各方面からいただいた「思いやり」への感謝の気持ちを一生忘れないで欲しいと思います。そして、これからの大学生活の中で、さまざまな形のボランティア活動に積極的に参加し、皆さんが受けた「他者を思いやる心（利他の心）」を自らの経験を通して育てていただきたいと思います。皆さんのボランティア活動は、今回の新型コロナで受けたご恩への「恩返し」にもなりますが、幅広い世代や地域の人たちとつながることによって、新たな発見があるだけでなく、コミュニケーション能力の向上にも繋がるはずです。

この半年間、新型コロナに関する情報が氾濫しています。新型コロナに限らず、発せられる情報の中で、事実と意見の線引きがあいまいなものが少なくありません。事実には根拠があるはずですが、事実のように断定的に書かれていても根拠のないものは個人的な意見の可能性がります。中には支持率を上げるために偽情報をでっちあげ、利用しているような政治家さえいます。色々な情報に惑わされず、巷にあふれる情報から事実のみを取捨選択する力も、ますます複雑かつ多様化する情報化社会を生き抜くために必要な力の一つです。先の見えない不安な状況に置かれると、偽情報があたかも真実のように心の中に忍び込み、誤った判断や情報発信に繋がりがかねません。とくに、新型コロナ関連で問題となって

いるネット上の誹謗中傷の多くは犯罪であり、ネット上の言論空間においても責任が伴うことを忘れてはなりません。

本学も含めたほとんどの大学が、「グローバルに活躍できる人材の育成」を目標に掲げ、大学の国際化、グローバル化を推進しています。当たり前のように人と物の往来を可能にした「グローバル化した世界」は、皮肉なことにウイルスにとっても最適な環境であり、またたく間に地球の隅々にまでウイルスは蔓延しました。とはいえ、さまざまな文化や文明を交差させ、新たな価値を見出そうとすることは大学の大きな使命の一つでもあり、ポストコロナ時代においても「大学のグローバル化」の歩みが止まることはないでしょう。今回の新型コロナの影響で起こった様々な変化の中で、今後も確実に残ると考えられるものの1つは、「大学教育のオンライン化」です。「大学教育のオンライン化」によって、全世界で「空間の壁（距離の壁）」がなくなりました。オンラインは、距離がゼロの「ドラえもんどこでもドア」のようなものです。「空間の壁」が消えて、次にみえてきた「時間の壁（時差の壁）」の解消に新たな工夫は必要ですが、世界中の著名な教授の授業をどこの国の学生でも聴講できる、このようなことが絵空事でなくなるかもしれません。皆さんの新しい生活様式で生まれる一人だけの自由な時間を、少しでも「外国語教育」に割くことをお薦めしたいと思います。

今回の新型コロナの問題は私たちの責任で生じたものではありませんが、私たちは今回の絶望や困難から多くのことを学ぶことができるはずです。くじけずに未来を構想し、志向する皆さんのこれからの挑戦は、絶望や困難をしっかりと見つめた先に必ず成就すると私は信じています。どうか、先行きが不透明な日々悲観しすぎることなく、小さくても地道でも、今できることに一つ一つ取り組んでください。私の出身高校が掲げる校訓の一つに、「天佑自助」という言葉があります。「天は、誠実な努力とひたむきな決意を、決して無視はしない」と信じ、「この困難は人生の栄養剤」と気持ちを切り替え、これからの学びや大学生活を前向きにとらえて欲しいと思っています。

最後に、私もこの春に学長に就任したばかりですので、皆さんと同じ1年生です。どんな苦難が訪れようとも皆さんと一緒に乗り越える決意でいます。一緒に頑張っていきましょう！

## 各学部長あいさつ

節があります。これはきわめて現実的な人間論で、多くの場合正答といえそうです。

しかし、人間がいつでも技術利用から逃れられないわけではありません。歴史を変える大きな転換を遂げたこともあります。

1960年ごろの多くの人々は、米ソ核戦争は不可避だろうと考えていました。核兵器は戦争の道具として圧倒的に「便利」——同胞の損害を最小にし、また後年には破壊を小規模にコントロールする技術も生まれます——であり、使われなければいけないからです。しかし、現代に生きる君たちは知っています。広島、長崎以降、世界に戦争や紛争は多くあったけど、核兵器は使われていないと。これは、偶然の幸運もあるのですが、明らかに、核兵器の使用は決して許さないという「世論」の力に依っています。(T.シェリング著、村井章子訳、『ミクロ動機とマクロ行動』勁草書房、2016年)。それは、本来的に非力であるはずの水鳥たちが、その小さ

後期の授業が始まりました。教員の目からは、前期オンライン授業は、遠い昔のことにみえます。今思うと不思議な体験でした。「準備万端、接続最悪」のときは、もう半泣きだったけど、誰にも見られることのない静かな授業は、肩の力が抜け、どこか伸び伸びとしていました。画面の向こう側の、遠くて近いN君(Nさん)には、どう映っていたのでしょうか。

## 人文社会科学部の 新入生、N君(Nさん)へ

### 人文社会科学部長 飯島 裕胤



さて、秋の深まる今日は、人文社会科学部がどんなことを学ぶ場か、一つの観点からお話をしましょう。

現代は科学技術が急速に進んでいます。今や、誰もが情報発信のための「テレビ局」や「新聞社」を持っている——。君たちは、事実上そんな社会にいます。まもなく、誰もが「運転手つき」の生活を送る——。各国で実験が進む自動運転技術は、そんな社会を可能にします。

ところが、この便利で夢のような時代に、「技術と人間のあり方」を立ち止まって再考すべきと主張する人たちがいます。「便利さの陰で、人間らしさが失われてはならない。科学技術の進歩によって、地球環境問題、富や教育の格差問題は改善しているのか」というわけです。その一方で、「便利なのは結構ではないか、技術の利用をおさえるなどナンセンス」という人もいます。N君(Nさん)の考えはどうでしょうか。

こんな答えかもしれません。「技術利用の再考も必要と思うけど、結局、人間の技術利用はおさえられないのでは。」世界的ベストセラーである『ホモデウス—テクノロジーとサピエンスの未来』(Y. N. ハラリー著、柴田裕之訳、河出書房新社、2018年)にも似たような一

な掻き足で大湖の水を奔流に変えたような、20世紀の人間がなしえた美しい成果です。

ところで、ここで考えた「人間の技術利用はどうあるべきか」、「実際にどうあるのか」といった問題は、「とらえどころ」がない問いです。ですが、人間と社会のあり方を大きく変える、重要な問いでもあります。

どうしたらいいのでしょうか——。一つ言えることがあります。とらえどころがない問いではあるけど、「人間の営み」そのものを、深く、広く理解することが必要なのは確かです。人間の感覚、価値観、いろいろな文化、制度や経済、組織やつながり……、これらを考えることが、人間社会のあり方を変える大きな力を理解することにつながるの、ほぼ明らかなことです。

N君(Nさん)。弘前大学人文社会科学部は、人間の営みを理解するさまざまな学問分野を学ぶ「文系総合学部」です。新しい技術への好奇心を持ちながら、君らの澄んだ瞳で、人間のさまざまな営みをよく見て、じっくりと考えることのできる素晴らしい場です。

改めて、人文社会科学部へ、入学おめでとう。  
(※ 文中のN君(Nさん)は、架空の人物です。)



半年遅れとなりましたが、あらためて入学おめでとうございます。入学という環境の変化に加えて、メディア授業という慣れない状況の中で前期の学修に取り組まれた皆さんに敬意を表したいと思います。後期の対面授業が始まる中で、困難を乗り越えてきた皆さんと直接お会いできることを楽しみにしております。

皆さんには、大学生活を通じて、「所与」と「選択」との間において、様々な人・モノ・コトと「遭遇」し、他者とともによりよく社会を生きていく足場を築いて欲しいと思っています。これまで当たり前と思っていたことを、自らの眼で様々な角度から見つめ直し、自分と他者との新しい出会いと世界の創造に向けて、学び続けてほしいと願っています。

「所与」とは「自分ではどうにもならないように思われる状況・境遇」あるいは「当たり前とされていて

むしろ、私たち人間は、心と頭と体を持ち、常に外界からの情報を自らのものとして、自身の生き方を決めてきたのであり、その集積が歴史を築いてきたのです。その中核をなしているのが、「学び」であるといえます。

これまでの高校生活で求められてきたのは、「学び」というよりは「勉強」だった方も少なくなかったかもしれませんが。「勉強」の元々の意味は「無理を強いる」です。すなわち、無理やり押し付けられた「決まった答え」をそのまま自分のものとし、それを正確かつ効率的に再現することだったかもしれません。しかしながら、これから大学において求められるのは、まさに「学び」です。あらためて皆さん一人ひとりが置かれている「いま・ここ」において、あらためて「所与」について「知り」「理解し」「疑い」「超える」ことです。その際、大事なことは、特定の時間と空間を生きている自らの心と頭と体を

## 「所与」と「選択」の間を生きる「学び」を

教育学部長  
福島 裕敏



るような状況・境遇」のことです。一方で、「選択」とは、私たち一人ひとりが「自由」に感じ考え判断し行動することができることを意味しています。私たちは、この「所与」と「選択」との間で生きています。実際、新型コロナウイルス感染拡大がいつ収束するのか、これからどうなっていくのか、まさに先行き不透明な状況に置かれています。こうした「所与」の中で、今何をすべきかを「選択」していかなければなりません。一方で、こうした一人ひとりの「選択」の連鎖が、あらたな「所与」を作り出してもいるのです。

「所与」と「選択」との間をよりよく生きていくためには、「知る」「理解する」「疑う」「超える」(佐々木毅『学ぶとはどういうことか』講談社、2012年)ことが重要です。すなわち、必要な情報を収集し、それを自分の心と頭と体に落とし込み、そこでおこった違和感を追究し、自ら判断し行動を作り上げ、新しい「所与」と「選択」をつくっていくことです。このことは、コロナ禍という現状においてのみ求められるものではありません。

もとに、必要な情報=知識を集め、自分の中に落とし込み、それをもとに判断し行動していくことです。

しかしながら、人間は利己的であり、自らの「いま・ここ」での欲望のままに行動したり、都合のよい情報だけをもとに、誤った判断や行動をしたりしてしまうことも少なくありません。また全知全能ではないために、誤った判断や行動を下すこともあるかもしれません。ですから、常に自分にとって他者である人・モノ・コトとの関わりの中で、「所与」を批判的に理解し、自らの「選択」を鍛えて行く必要があります。こうした中で生まれた「選択」は、個人のものではなく、集合的なもの、いわば人と人との関わりの中で生まれた「社会的」「公的」なものといえるでしょう。逆にいえば、私たちの「学び」が、新たな「社会」や「公」を創る原動力でもあるのです。

ぜひ、豊かな「学び」を積み重ねて欲しいと思いますし、それを支える環境を大学として提供できるように努めていきたいと思っています。

**新** 入生の皆さん、入学して半年以上が過ぎ、学生生活にも大分慣れたのではないのでしょうか。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、今までとは違った学生生活を強いられ、大変と思います。ただ人間は、逆境にあってその壁を乗り越えて初めて人間的に成長し、乗り越えた人だけに見える世界があります。人生はこの繰り返しと思っていますので、決して挫折することなく頑張って欲しいと思います。何か、困ったことがあれば、一番身近な部活・サークルや高校の先輩に聞いてみましょう。それでも、不安や困りごとが解決しない場合には、遠慮なく、学務担当の職員や我々教員に相談してください。一人で抱え込まない様にしましょう。

さて皆さんは、医学科に入学して、早く立派な医師になりたいという熱い思いを持って、日々授業に臨んでい

なり、オペラの本を読んだり、美術館に行くようになりまして。付け焼刃と言えばその通りですが、医学だけでは人間として寂しいと感じた次第です。その後、ドイツ、フランス、英国の教授と友人となり、毎年その方達とそれぞれの国で、学術活動の後で会食をするようになりまして、ヨーロッパの教授の皆さん、非常に趣味が多彩です。ですので、私も、今では学会などで訪れた先の美術館などを巡ったり、BSの美術に関するTV番組を見たりして、感性を磨く様にしています。と言っても、大して進歩はしていませんが。そういう訳で、皆さんには、若い内から是非教養教育をきちんと受けて貰い、一般教養を身につけて欲しいと思います。そして、一般教養に通ずる趣味も持ちましょう。恥ずかしい思いを海外でして欲しくないですし、一般教養が、生活を豊

## 教養教育の意義

### 医学部長・医学部医学科長 廣田 和美



ると思います。そうした中で、何故教養教育を受けなければいけないのかと、疑問に思っているのではないのでしょうか。医学と関係のないことをやっても、無駄ではと思っていないのでしょうか。私も、1年次はそう思いましたし、教養教育に身が入らないで中途半端に過ごしている内に、医学への熱い想いも薄れて行きました。このため、カリキュラムが改正され、現在では1年次から専門教育が取り入れられています。しかしながら、教養教育はやはりとても大切なものであり、しっかりと勉強して欲しいと思います。私もそうですが、日本の医師の多くは、医学以外を知らない専門馬鹿が多いです。教養を持たないで海外留学すると、留学先で頭でっかちの教養のない奴と言われてしまいます。私自身の経験です。留学先でお世話になっている講座の教授宅に招かれて、講座の准教授や講師の方々と会食をした時に、話題はいつも音楽、美術などの芸術や文学、歴史、スポーツに関するものであり、医学について食事中に話すことはほとんどなかったです。それを知って、私は非常に恥ずかしく

かにすることも、是非知って欲しいと思います。

弘前は、四季折々に祭り（春：日本一の桜祭り、夏：ねぶた祭り、秋：菊と紅葉祭り、冬：雪燈籠祭り）があり、一年を通して自然を楽しめる土地柄です。是非、都会の喧騒を忘れ、自然の豊かさを実感しながら、弘前大学医学部に愛着と誇りを持って、勉学並びに課外活動に勤しんで下さい。



**新** 入生の皆さん、ご入学おめでとうございます  
今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため入学式も中止となり、前期の授業もオンラインで実施されました。感染流行前の当たり前だと思っていた生活の有難さを痛感した方も多いと思います。皆さんにとっては一度だけの晴れの舞台となるはずだった入学式が中止となり、落胆されたのではないのでしょうか。私達教職員も残念でしたし、皆さんの期待に応えられず申し訳なく思っています。入学式やガイダンスで沢山の友人を作り、サークルや部活動にも参加するなど学業の他にも様々な活動をする夢を抱いていたことと思います。自宅でのメディア授業を受けながら、夢と現実の違いにがっかりした方も少なくなかったのではないのでしょうか。また、外出自粛も呼びかけられていた状況下で、引越

し、多くの経験を積み、沢山の思い出を作ってくださいと思います。ぜひ他の専攻や他学科、他学部の友人も作り、職種によるアプローチや考え方の違い、また患者さんや一般の方の気持ちも理解できる、広い教養や見識、思いやりの心を身に付けてください。

新型コロナウイルス感染症拡大に際し非常事態宣言が発出されていた頃に比べると日常生活も少し落ち着きを取り戻しつつあるかと思いますが、まだまだ油断はできません。「新しい生活様式」に則った生活が続きますが、対面授業を継続できる様に皆さんも感染拡大防止へのご協力をお願いします。特に保健学科では医療施設などでの実習を行う関係で、他の学部よりも多くの制約をお願いする可能性があります。ご理解とご協力をお願いします。

さて、弘前はリンゴがたわわに実る季節を迎えています

## 新入生歓迎の言葉

医学部保健学科長  
**齋藤 陽子**



てきたばかりのアパートの部屋でメディア授業を受け、新型コロナウイルス感染症に関する不安もあり精神的にも大きなストレスとなった方もいるのではないかと思います。メディア授業については、私を含め大多数の教員が初めての経験で試行錯誤を繰り返していましたので学生の皆さんにご迷惑をおかけした事もあるかと思えます。新入生の皆さんは教員にもまだ一度もあつたことのない状況でしたので、授業中に質問しにくいと感じた事もあつたかもしれません。お詫びすると共に、皆さんのご協力に心より感謝致します。

後期からはいよいよ対面授業が始まり、我々教職員も皆さんにお会いできるのを心待ちにしております。皆さんの卒業までの残り3年半が有意義なものとなるよう、学業や学生生活をできる限りサポートしたいと思っています。卒業時に“弘前大学に入って良かった”と思ってもらえるように尽力したいと思います。種々の制約はありますが、部活動、サークル活動、ボランティア活動など、学業以外の活動でも皆さんの能力を余すところなく

す。欧米では、リンゴが大学や教育のシンボルとされている事を皆さんはご存知でしょうか。リンゴを輪切りにすると中心の種のあるところが星型に見え、リンゴを輪切りにするのはスターカットというのだそうです。リンゴと同じように、皆さんの一人一人の中にも将来星のように輝く素質が秘められています。その素晴らしい素質を見つけ、磨き、光り輝くように導くのが教育や大学の役割であるため、リンゴが教育のシンボルとなったそうです。私達教職員は、皆さん一人一人が素質を伸ばし、新しい令和の時代を担う立派な卒業生として巣立っている様に精一杯指導や手助けを致しますので、皆さんも自分の目標を持ち努力をしてくださるようお願い致します。

新入生の皆さんの学生生活が実りあるものになることを祈念し、学科長からの歓迎の言葉とさせていただきます。

今年、新型コロナウイルス感染の影響で、新年度の入学式をはじめとして、予定の変更が次々となされ、授業もオンラインとなるなど、異例づくめでした。連日、全国各地のコロナウイルス感染者数が報道される中で、世界各国の状況も明らかとなり、クラスター（感染者集団）、オーバーシュート（感染爆発）、ロックダウン（都市封鎖）といった用語を耳にする機会が増えました。感染の拡大を防ぐためには、どうしても「人の動きを止めること」が必要不可欠であり、わが国でも緊急事態宣言が出され、国民全体に不要不急の外出制限、ステイホームが求められました。世界の国々の対応についてみると、いち早くロックダウンを行う国もあれば、経済活動優先で新型コロナウイルス感染を甘く見る国もあり、様々でした。白か黒をはっきりとさせる対応は、

を指摘しています。ドラッカーは「大化の改新」と「明治維新」という2つの変革を日本が経験しており、日本が大化の改新で中国の文化を移入し、明治維新で欧米の文化を移入したことを知りました。その中で、日本は日本固有の文化やアイデンティティを失うことなく、バランスを取った形で異文化を吸収していたことを知り、「日本人は、ものごとの本質を因果ではなく、形態としてとらえる能力を持っている」ことに気づきました。他の国々は、欧米から輸入した技術と制度をもとに近代国家と近代経済を建設しようと試みましたが、いずれうまくいきませんでした。しかし、日本だけは近代化に成功し、この理由をドラッカーは、他の国は自分の国の「西洋化」をはかったのに対して、日本だけは、日本の「西洋化」ではなく、西洋の「日本化」をはかったから

## コロナ禍にあって — 新入生の皆様へ —

### 医学部心理支援科学科長 栗林 理人



分かりやすい半面、副作用も大きいようです。わが国は、当初から白でも黒でもないグレーの対応のように見えました。医療現場の最前線では、コロナ対応の救命救急センターの医師がテレビ局のインタビューに対して、「何が正解なのか分からないが、目の前の患者様に今自分のできる最善のことはするしかない」と述べていました。現場では、医療スタッフが日夜、心が折れそうになりながらも、踏ん張っていることを思わされました。一方では、極度の不安が個人にとどまらず集団へと展開し、いわゆる「スケープゴート」をつくり出し、差別や誹謗中傷が飛び交う事態が生じていました。結局、わが国は感染防止策というブレーキをかけながら、経済活動というアクセルを何とかバランスよく操作する方針をとり、まさに「コロナとともに」という道を慎重に歩いていくことになりました。

私たちは、どのように歩いていったらいいのでしょうか。P.F.ドラッカーは、日本に興味を抱き、日本の歴史、文化、国民性などを徹底的に調べる中で、次のこと

だと語っています。こうしてドラッカーは、形態としての全体を知覚するという日本人の能力に関心を深めてきました（NHK「100分de名著」ブックス／ドラッカー・マネジメント・上田惇生著／NHK出版より）。ドラッカーによると、日本人には大きな変化を受け止めて、全体像をとらえて向き合いつつ、何とか折り合いをつけていく力が備わっているとの指摘です。確かに、東日本大震災をはじめとしたさまざまな災害にも、日本人は「人と人との絆」の重要性を意識しながら、復興を進めてきました。今後は、「コロナとともに」生きていくという生き方、ライフスタイルを1人1人が身につけていく必要があります。

学生諸君が、この弘前の地で在学期間中にそのようなライフスタイルをしっかりと身につけられるよう、教員側がサポートできるようにと願っています。





**皆**さん、こんにちは。新入学の時期から半年を経て、いよいよ後期の授業が始まります。この半年の間、皆さんもそして私たち教職員も、想像していなかった状況での大学生活になってしまいました。大きな期待を持って、新たな気持ちを持って始められるべき大学での学修や生活に、いろいろな制限が加えられてしまっていることは大変に残念なことです。新たな取り組みを始めるきっかけにもなっていることは、不本意ながらも好ましいこととして受けとめたいと思います。

新入生の皆さんは、大学に入学するために様々な準備をされてきたことと思います。入学試験のための勉強は、みなさんがもっとも重視してきたことの一つだったと思いますが、高等学校での学習や準備は、大学に入るためだけのものではなかったことを、大学での学修の中

質、振動など、現在の高等学校で使われている教科書の内容とよく似ています。大学の専門教育を受けるための準備は、70年前と大きくは違ってはいないように見えるのです。上に書いたように、最先端の科学や技術が70年前と同じということはありません。この間に古くなり廃れてしまった知識や技術も少なくないにしても、大学に入学してから学問の最先端に達するまでに身につけなければならないことがらが、大変に多くなっていると言えるのです。ひとりひとりが身につけることができる知識や能力は限られています。どのような分野に進むにしても、ひとりひとりの力を活かし、協働して物事に取り組んでいかなければ、最先端の世界に辿り着くことはできないと思います。

理科系の科目の学修は、ときとして孤独なものです。

## 新入生の皆さんへ

### 理工学部長 佐藤 裕之



で実感してもらえていることを願っています。

理工系の学問は、高校の教科の名前で言えば数学や理科に関係するものが多いのですが、この数十年の間に、とてつもない速さと量の発展を遂げてきました。知識の蓄積も技術の発展も、一人の人間がすべてを追いかけて身につけることは不可能です。最先端の科学や技術に触れるためには、大学での学修を進め、卒業後も社会で、また大学院で学び続けることが必要です。このように記すと、苦役のようにも見えてしまうかもしれませんが、多様な情報を適切に選択し、自らに新しい知識や行動のしかたを自然に染みこませてゆく力を身につけることが、大学での学修の目的の一つとも言えるでしょう。

私の手許に、日本の金属物理学を牽引してこられた本多光太郎博士の「新制物理学本論」という古い本があります。昭和27年に印刷された書籍で、序文によればその内容は昭和10年の高等学校の、今で言えば大学の低学年までを含む読者のために編纂された書籍のようです。その内容を見ると、力学、エネルギー、気体の性

「わかった」、あるいは「理解できた」、という感覚は、ひとりひとりが自覚するよりほかに経験のしようがありませんし、他の人の「わかった」の感覚を感じることもできません。他の人の「わかった」が、自分の「わかった」にはなり得ないのですが、「わかった」ことを経験したことのある人の間には、うまく表現することができませんが、互いに共有できる感情が生まれてくるように思います。同じ場所で、同じ時間にこのような感情を共有できた隣人が、大学でもともに学修した同級生であり、同窓生と言えるのでしょう。

後期から、対面授業が始まります。さまざまの制限はありますが、同じ教室で一緒に、「わかった」を共有することを経験してほしいと思います。

御入学おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症のために、入学式や対面授業がなされないことになり、不安な日々を過ごしていることと思います。こうした状況ですが、入学生となった皆さんを大いに歓迎したいと思います。弘前は、りんごとさくらとお城で有名な城下街です。弘前の地では、春の桜祭り、夏にはねぶた祭り、秋には世界自然遺産白神山地や十和田八幡平国立公園などの紅葉、冬にはスキーなどのスポーツが楽しめます。梅雨や夏の暑さも仙台以南に比べ優しく、過ごしやすい恵まれた環境で勉学に専念できる良いところです。

皆さんは、どんな夢や希望を抱いて入学されたでしょうか。本学部は、地域農業や地域の生物など、地域に密着した教育研究ができる学部です。先生達は、こうした

ことなどが起こり得る可能性があります。このような時代に、どうしてもやってみたい夢を見つけることが出来れば、その夢がうまくいかなかったとしても後悔は少ないと思います。むしろ、強い夢に対するあこがれは夢の実現に前向きに取り組むエネルギーとなるでしょう。そうした、後悔しないような夢を見つけ出してください。いつの時代も人は悩みや迷いを抱えて日々その改善に取り組んでいます。こうした原動力には、熱望出来るような夢の有無が大きく関わると思います。

多くの入学生の中には、明確な夢や希望をもたずに何となく入学された、あるいは不本意な理由で入学された方もおられるかもしれません。毎年一定数の方がこのような状況で入学していることも感じられます。しかし、卒業あるいは大学院を修了時には、この大学で学んで良

## 前向きに夢に取り組もう

### 農学生命科学部長 佐々木 長市



教育研究を皆さんとともに考えながら、指導に当たっております。そうした先生を大いに活用し、自分の夢を叶えるようにしてください。直ぐに叶わない夢も多いと思いますので、その夢に4年間あるいは大学院も含めて6年間取り組み、少しでも近づけるように努力してください。きっと有意義な学生生活になると思います。この夢の実現に向けた門出に、新型コロナウイルス感染症という、未曾有の事態に直面し、心が折れそうになることもあったかと思えます。しかし、この直面している環境は、じっくり自分を見つめ、自分に対し最も適した夢は何かを熟考できる良い機会になるのではないのでしょうか。また、講義などの変更、遠隔での実施などに直面し、これまでの慣行的なものの考え方に変化が起っていると確認されることもあったのではないのでしょうか。皆さんは若く、これからの社会をつくっていく原動力となりますが、先を見通すには難しい時代だと思えます。こうした時代には、今一番いいと考えられる職業などが10年後や20年後にはなくなる、あるいは衰退していく

かったと言う感想を聞いております。いろいろ不安があるかと思いますが、物事を前向きに捉え、このような良い環境で勉学できることに感謝し、有意義な時間を過ごすことを期待しております。こうした夢の実現あるいは夢を見つけるために、多くの本を読み、友人と語り合ってください。私の好きな言葉「ローマは1日にしてならず」という諺が示すように、夢の実現には、夢を追続ける努力や気力の持続が大切であると考えます。

皆さんもそれぞれの夢を大切に、実現に向けて、いろいろなものに挑戦する4年あるいは6年であることを期待しております。

最後に、新しい暮らしの始まりに際し、このような勉学の機会を与えてくれた両親や先生達に感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。



# 特集 新学期を迎えて

## 大学生になって



人文社会科学部  
社会経営課程1年

内藤 真倫

オンライン授業という例年とは違った形式の前期が終わり、大学1年生も残るところ半分となりました。後期から対面授業となり、いよいよ弘前大学に通学できるのだという期待に胸を膨らませています。

私が弘前大学で4年間を過ごすにあたり大切にしていきたいと考えたことは、「出会い」と「挑戦」です。

多岐にわたる学部が存在する弘前大学は、様々な考えや価値観を持った人と出会える場であると考えます。私はそのような出会いを重視し、人とのコネクションを丁寧につくっていくことで、自分の視野を広げたいと思っています。

また大学生活は、自由が多いという点あげられます。制限が少ないからこそ、有意義な時間の使い方を自分で考え、自分から行動しなくてはなりません。そこで私は「挑戦」という言葉を軸に行動していきたいと考えます。授業や部活動など学校内の活動にとどまらず、旅行やインターンシップなどに参加することで行動範囲を広げ、私の知らない多様な社会を見てみたいと思っています。

楽しみながらも価値のある行動を心がけ、自分にしかない魅力をつくれるような4年間にしたいと思っています。



人文社会科学部  
文化創生課程1年

伊藤 青空

## 私と弘前をつなげる半年

人生で初めての一人暮らし。その不安は、大学生と街との“地域のつながり”を感じさせてくれた、近所の八百屋のおじさんやアパートの大家さんなど、私の身近な弘前の方々のあたたかさによって、早々に和らぎました。

ほとんど何も知らない弘前の街を知りたくて、早く街に馴染みたくて、私はたくさん街を歩くことになりました。弘前城や弘前れんが倉庫美術館に訪れてみると、弘前という街が、過去の歴史を大切に守り、現代に受け継ぎ、未来へとリレーしているという、“時間のつながり”を肌で感じることができました。そして

そのバトンは、前期の歴史や文化を学ぶローカル科目の受講を通して私にも渡されているのだなあと実感しました。

前期は思い描いていた大学生活とは違う過ごし方でしたが、心細さを共有した旧友の存在や、自分にはない価値観を持つ新しい友人や先輩方から“人とのつながり”の大切さを再認識した期間でもありました。

これからの大学生活では、どんな状況でも学べることに感謝し、さらに“つながりの輪”を広げ、この大学、この街でしか学べないことを“体感”として学んでいきたいです。

人文社会科学部  
社会経営課程1年

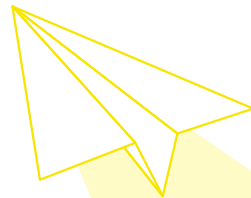
中田 就斗

## 弘前大学に入学して

夢の大学生活に大きな期待を抱き、地元を離れ弘前での生活が始まりましたが、今年はCOVID-19の影響を受け、入学式がなくなり、授業開始も遅れ、部活動やサークル等の活動もできず、孤独な時間を過ごすことを強いられていました。しかし徐々に制限が解除され、授業こそオンラインであったけれども部活動、サークル等で、いろいろな人たちと知り合うことができ、やっと大学生らしいことができるようになってきました。元の日常に戻るのはまだ先のことになるとは思いますが、アルバイト、ボランティア等大学生ならではのことをたくさん経験し、貴重な4年間にしていきたいと思っています。

私は、まだ就きたい職業などは決まっていません。ただ大学では経済を重点的に学ぼうと考えており、積極的に履修していきたいと考えています。また2年生の初めにはコース選択もあるので、良い成績をとり希望のコースへ行けるよう努力していきたいと考えています。

大学生活は少し慣れてきたとはいえ、まだまだ分からないことが多く、自由が増した分、危険なことや責任は伴うので、自覚をしっかりと持ち行動することが求められることを忘れずに貴重な大学生活を無駄にせず精進していきたいと思っています。



人文社会科学部  
社会経営課程3年  
大川 真由子

## 新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学から数ヶ月経ちましたが、今年はコロナウイルスの影響によってオンライン授業が実施されるなど、例年とは異なる動きがたくさんありました。慣れない学生生活に不安や心細さが重なったのではないのでしょうか。

「大学は人生の夏休み」と言われているように、大学生活は自分の行動次第で何でもできる期間です。私は大学に入学してから様々なアルバイトを経験しました。働いていく中で自分の向き不向きに気付くことができたり、新しい人間関係を築くことができたりして、得られたことはたくさんあったように

感じます。皆さんもやりたいことがあれば、フットワークは軽く、とにかく行動してみるのがいいと思います。以前より行動は制限されてしまうところもあるかもしれませんが、その中で自分ができることを見つけていくことが、自分自身の主体性を育てることに繋がると思います。

最後になりますが、何か不安があれば身近な友達や先輩、先生などを捕まえてじゃんじゃん話しかけてみましょう。広い人間関係を築けるのは大学生活の良いところです。みなさんの大学生活がより良いものになりますよう、応援しています。



人文社会科学部  
文化創生課程3年  
工藤 菜々子

## 後悔のない大学生活を過ごすために

新入生の皆さん、いかがお過ごしですか。新型コロナウイルスによる混乱の中での大学生活に大きな不安や戸惑いを感じていることと思いますが、学生生活最後の四年間は既に始まっており後戻りはできません。限られた貴重な時間を有効活用するために、私が大切だと思うことをお伝えします。

それは大学生活を終えた後の自分を想像して行動することです。大学では自分自身で選択し積極的に行動しなければ何も始まりません。学生の本分である学業を当たり前になした上で、バイトやサークル、留学、資格取得など、時間に余裕のある今だけか

らこそできることが沢山あります。その全てにおいて情報収集や必要なものの手配等を自ら行う必要があります。準備の段階で非常に手のかかるものが多いです。しかし、将来の自分が大学生活を振り返った時に胸を張って頑張れたと語る姿を想像すれば、一時の楽しみに身を任せるよりも、自分が優先してやるべきことが山積みであることに気づきます。四年間はあっという間です。勉強や好きなことができる環境、そして周りの人への感謝を忘れずに過ごして下さい。皆さんが悔いのない大学生活を送ることができるよう、心から願っています。



人文社会科学部  
社会経営課程3年  
外和 悠大

## 自由の使い方を考えて

新入生の皆さん、大学生活には慣れてきたでしょうか。今年の講義やその他の生活は、皆さんが想像していたものとは大きく異なり、大変なことも多いでしょうが、元気で過ごせていると願っています。

突然ですが、僕は、大学生活は勉強だけでなく遊んでいいと思っています。遊びからしか得られない学びや出会いは数えきれないほどあるからです。ただし、してもいいのは皆さん自身が責任を取ることだけです。例えば、課題をやらずに成績が下がるのも、お金が足りなくて借金をするのも同じく自由です。しかしその時、その責任を取るの自分自身ですか？それとも周りの誰かでしょうか？あなたが

とった無責任な行動は、やがて見ず知らずの誰かにまで知れ渡り、迷惑をかけてしまうことを、忘れてはなりません。

すでに実感している人も多いと思いますが、皆さんは今までとは比べ物にならない程の自由を手に入れています。自分のお金や時間を、何にどのように使っても、文句を言ってくる人はいないですよ。そこで、自分に与えられた自由を超えようとしていないか、よく考えてみるようにしましょう。

もし何か心配事があるときは、迷わず僕たち先輩を頼ってください。大学生活と一緒に楽しみましょう！



教育学部  
学校教育教員  
養成課程1年  
太田 泉

## 弘前大学の一員として

弘前大学に入学し、約半年が過ぎました。そして今年には新型コロナウイルスの影響により、前期がオンライン授業となりました。私は、初めての一人暮らしの寂しさに加え、人との関わりが少なくなってしまうことに不安を感じていました。期待と意欲で胸を膨らませていたはずが、思い描いていた大学生活とかけ離れていることに戸惑い、次第に目標を見失っていました。

そんな中、前向きになれるきっかけが二つあります。まず一つ目は、陸上部に入部したことです。陸上部の先輩たちは、目標に向かって努力していたり、仲間と笑い合っていたり、とても輝いて見えました。

この競技が好きだという熱意が伝わってきて、私も先輩たちのように充実したいと感じました。二つ目は、teamsの会議で留学経験者の話を聞いたことです。留学中の勉強や生活のこを知る貴重な機会になり、胸が高鳴りました。そして、私も海外に出て、多くものを見聞きたいと思いました。これらの経験からだけでも、弘前大学には目標となる方がたくさんいると気付かされました。

人生で一度しかない大学4年間に、様々な経験を積みたいです。そしてこの4年間で自分の人生の糧となるよう、努力していきます。



教育学部  
学校教育教員  
養成課程1年  
久保 光彰

## 自主的探求活動を継続して教員の素地を磨く

中学校の恩師H先生は数学の授業を通して、論理的に考える楽しさや仲間と協働で問題解決をする充実感を教えてくれました。H先生の感化を受けて、自分の好きな数学教育の側面から郷土である青森県の発展に貢献していきたいと考えて中学校コースの数学専修に出願しました。

幸運にも合格の通知を頂き、引越しのために弘前を訪れたとき、岩木山の雄大で端麗な山容に心を奪われました。入学式は中止になりましたが、岩木山が自分の入学を祝福しているように感じました。

大学の前期の講義はオンラインが中心でした。自分でテーマを設定して期末にレポートの提出を求める科目が多くありました。「法と社会B」では、ハンセ

ン病患者に対する政策と基本的人権の保障をテーマにして新聞記事や資料を添付して自説を述べました。

「人間教育論I」では、“ヴィゴツキーが提唱する発達の最近接領域”に働きかける主体的・対話的で深い学びのあり方について先行する研究文献を複数紹介しながら持論を展開しました。

私は自主的探求活動をさらに継続的に実践して、一般教養をはじめとし、教職の専門的知識と指導力を身に付けていきます。そのことが自分の理想とする「人間性豊かで使命感にあふれ、確かな指導力のある教員」の素地になると考えるからです。将来の夢の実現に向けて、師を敬し、友を愛しながら大学生生活の4年間で全力投球でがんばります。



教育学部  
養護教諭養成課程1年  
平 梨奈

## 弘前大学に入学して

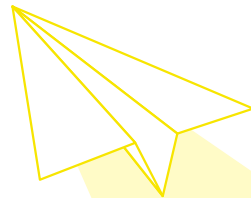
皆さんこんにちは。教育学部養護教諭養成課程の平梨奈と申します。私はAO入試で合格をいただきました。この春、晴れて弘大生の一員となることができ、本当に嬉しく思います。

大学生活への期待と不安を抱きながら春から弘前でひとり暮らしを始め、前期が無事に終了し、現在は夏期休業を迎えました。新型コロナウイルスの大流行の影響を受け、私の大学生活は、感染予防対策を行う毎日の中で慌ただしく過ぎ去っていきました。対面授業に代わってオンライン授業が取り入れられ、慣れないパソコン操作に苦労したこと、思うようにサークルやアルバイトに勤めず、人と接

する機会が制限されたことなどが印象に残っています。

コロナ禍で自粛生活が主であった前期を経験した今、対面授業再開により、大学本来の本格的な講義を受けること、サークルやアルバイトに勤しみながら人間関係の輪を広げることが可能になるであろう、後期の大学生活に大きな希望を抱いています。

“養護教諭になること”を大学生活を送る上での大きな目標として掲げ、困難や課題に立ち向かうことを怠らずに、悔いのない有意義な4年間だったと誇りをもって言うことができるよう、精進していきたいと思っています。



教育学部  
学校教育教員  
養成課程2年  
櫻庭 舞花

## 新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今、皆さんは楽しい大学生活を送れているでしょうか。今年の前期はコロナウイルスの影響を受け、全面的にオンラインでの授業が行われていました。このような形式での授業は恐らくほとんどの人が初めての経験だったのではないかと思います。その上、1年生の皆さんは初めてのことがたくさんあり、不安な日々を過ごしたことでしょう。さて、私が皆さんに伝えたいことは大学生のうちにはしかできない様々なことを経験するべきということです。

大学生でしか経験できないことは勉強はもちろん

ん、サークルでの活動やバイトなど生活に絡む全てのことが当てはまります。また、約半年が過ぎ、皆さんも感じていると思いますが、大学生活では自由な時間が増えます。この時間を有意義なものとするためには何をすべきなのか、何を体験すべきなのか良く考えてみてください。

後期からは授業が対面で行われたり、部活やサークルの活動が始まったりするなど、楽しいことがたくさんあると思います。健康に十分気をつけ、大学生活を楽しんでください！



教育学部  
学校教育教員  
養成課程2年  
吉田 りりあ

## 新入生へのメッセージ

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本来であれば、大学内やサークル活動などで人とたくさん関わることが出来る場面があったと思います。オンラインでの講義を受講している為、関わることは少ないですが、オンラインの良さを利用したり、実際に会って関わる事が出来る機会を増やしていきたいです。

親元を離れ、一人暮らしを始めた方も多と思います。私自身も大学入学の際、一人暮らしを始めました。勉強をするためにも基礎の生活に気をつける

事は大切だということは理解しているけど、料理や掃除などの家事をしながらの勉強は大変で悪戦苦闘の日々もあると思います。きっと思い描いていた大学生活とは違うなと思っている方もいると思いますが、今だからできることや新しく挑戦したいこと、学びたいこと等、自分の好きなことややりたいことを大切にすることができる時間にしていきたいですね。

皆さんの大学生活が充実した素敵なものになるように応援しています！



教育学部  
養護教諭養成課程4年  
小笠原 百香

## 今ここで何ができるのか、そして何をするのか

1年生のみなさん、こんにちは。みなさんがご入学されてから早くも半年が経ちましたが、今日までどんな毎日を送られてきたでしょうか。慣れない環境で、そして新型コロナウイルス感染症による誰もが慣れていない新しい生活様式のもと大学生活をスタートさせることは、きっと容易なことではなかったと思います。私自身、自由のきかない毎日をととてもどかしく感じていました。そこで今回私からみなさんへお伝えしたいことは、私たちはそんな日々を変えていく力を持っているということです。

自由のきかない毎日になってから、働き方が見直

されてリモートワークが普及したり、マスクをしていても化粧崩れにくい商品が開発されたりと、他にも色々な新しいカタチ・モノが生まれ、私たちの生活の可能性が広がってきました。それは、多くの人が「今できないこと」よりも「今できること」に目を向けた結果だと思います。また、これは大学生活においても同じことが言えるのではないのでしょうか。あつという間の大学生活です。ここ弘前大学で、今「何ができるのか」、そして「何をするのか」に焦点をあて、慣れない日々の中でも充実した時間を過ごしてほしいです。

医学部医学科1年  
飯尾 政充

## 好きなだけ、勉強していい

今年度は新型コロナウイルスの影響で前期の授業は全てオンラインで行われました。カメラ越しの受講自体が初めてで、画面の向こうに会ったことがない人達が大勢いる感覚は不思議なものでした。また対面でない為に「まさか、何か課題を忘れてるなんてことはないかな?」など不安になることも多々ありました。しかし慣れない生活には問題が付きものです。ここだけの話ですが、前期が終わる頃に単位絡みの問題が学年の中で起きました。「今までなら平気なはずなのに、どうして?」と私を含め多くの生徒が疑問に思っていました。しかし原因は私達が大学ではこれまでの誰かの指示を受けてから取り組

む“受動的”な姿勢は通用せず、自分から進んで学びに行く“能動的な”姿勢が重要なことに気づいていなかったことにありました。この学習姿勢の変化は私達新入生にとって最大の課題であり、同時に最大の魅力だと私は思っています。なぜなら自分の持つ「もっと、もっと勉強したい」という思いを解放していいということを表し、どこまで成長できるかは自分次第で決まる!ということです。私はこの6年間好きなだけ、気が済むまで勉強していきたいと思えます。



医学部医学科1年  
堀越 杏奈

## 弘前大学に入学して

新型コロナウイルスの影響により、オンライン授業というイレギュラーな形で始まった大学生活もあっという間に半年が過ぎました。授業に慣れることや友達を作ることなど不安なことがたくさんありましたが、友人や先輩方のおかげで楽しい日々を送れています。

私は運動部と医療系の学習サークルに所属しています。そこで新たに出会った人々の物事に対する考え方や姿勢に常に刺激され、自分の視野がどんどん広がられていることを実感しています。医学についても、知らなかったことを新たに学ぶことに喜びを感じています。後期からは専門科目の授業が増え、

医学について学ぶ機会がさらに増えるため、より一層気を引き締めて頑張ろうと思います。

私の目指す理想の医師像は、「自分の家族が病気になった時に紹介したいと思える医師」です。この表現は抽象的なので詳しく言うと、技術的にも人間的にも信頼して頼ってもらえることのできる医師、ということです。この理想像に少しでも近づくためにも、勉強だけでなく課外活動にも積極的に取り組んで人間として大きく成長していきたいと思えます。長いようで短い大学生活を後悔のないように全力で過ごしていきたいです。



医学部医学科1年  
森 萌音

## 弘大生になって

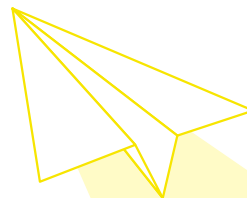
本年度はコロナの影響があり、様々なことがイレギュラーに進み、新入生には過ごしづらい新学季でした。名物のお祭りも中止、部活やサークルの新歓もありませんでした。入学半年が経っても自分の学部があるキャンパスに数えるほどしか行ったことが無く、同級生の顔や名前を半分も知らない状態です。

しかし、私はこの状況だからこそ見出せたこともあると感じました。行動が制限され、できることが絞られたことで身近なことに集中でき、新たな発見もありました。特に、遠出をしなくても弘前内で行われているイベントやオンラインで活動可能なサー

クルに参加することだけでも意外と充実するというのは大きな発見でした。

普通であれば大学生活の始まりとともに、様々なことが同時進行していき、意志を持たないまま周りに流されて過ごしていくところだったと思います。しかし他人の干渉の少ない自分の時間を得られたことで、大学生活での時間の使い方を意識することができました。大学では自分から行動して学んでいく必要がある、と前期の授業を通して実感しました。大学生の間に今まで漠然とやりたかったことを、受け身にならずに行動に移していきたいです。





医学部医学科2年  
沼沢 詩音

## 新入生の皆さんへのメッセージ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今年はコロナの影響で入学式も通常の対面授業もなく、非常に特殊だったといっても過言ではないと思います。前期を終え、振り返ってみてどんな半年だったでしょうか。長い受験期を乗り越えて掴んだ、キラキラした大学生活を想像していた人にとっては、思っていたものとは違うと感じた人も多いと思います。しかし、徐々に部活動も解禁され、少しずつではありますが元の生活に戻りつつあります。多少の制限はありますが、部活ができているところは全国をみると数少ないです。部活が始まってから、初めて同期に会えた人も多いと思います。

ここで、私が新入生の皆さんに伝えたいことは、縦と横の繋がりの大切さです。後期になると専門科目が始まります。授業の課題や試験範囲など、自分一人で全て網羅するのは想像以上に大変です。先輩方や周りの友人の力を借りて1つずつ乗り越えていきましょう。試験前に友人と一緒に勉強すると知識が定着するので、試験突破の方法としてオススメです。

時間は有限で、あっという間に正月になり、試験期間に入り、春休みが来ます。部活やアルバイト、趣味を見つけるでもいいので、勉強しつつぜひ充実した大学生活を送って下さい。一緒に頑張りましょう。



医学部医学科2年  
樋口 瑠

## 新入生に向けて

遅くなりましたが、まずは新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。例年通りであれば、今頃は学校生活にも慣れてくる時期はずだったのですが、今年度はCOVID-19の影響によりオンライン授業など閉鎖的な環境となってしまう、自宅でレポートに追われる日々だったかと思います。

さて、10月から対面授業が始まり、それと同時に高校の時の生活やこのコロナ期間の半年の生活とは打って変わり、新しい環境での生活が始まったことと思います。その中で、いろいろな地域から人が集まり、交流し、ともに過ごしていくことでしょう。そして変化に戸惑い、大変な思いをすることもあ

かと思います。そんな皆さんには私から伝えたいことがあります。それは、「新しいことに挑戦してみること」です。やはり、大学生活における1番の魅力は、自分のやりたいことに時間を存分に使えることだと思います。様々なことにチャレンジして、様々な経験を得ることでより一層自分を成長させることができるでしょう。最後に、「やるべきことはきちんとこなすこと」です。適度にサボることも大事ですが、それで単位を落としてしまえば元も子もないです。メリハリのある学校生活を過ごしてほしいと思います。



医学部医学科2年  
御代田 浩佑

## 澤 標

まずは新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして前期お疲れ様でした。件のウイルスで新入生の皆様も少なくない影響を受けたことでしょう。今も出口の見えない不安等々に苛まれている人もいるかもしれません。そこで1つ、応援ということで私から提示をしたいと思います。私が日々大事にしているのは謙虚さです。卑屈と似て非なるものですが、その違いは他者への敬意の有無です。敬意が無ければ、自分と違う考えや価値観を侮り、拒絶して、好きなものだけを受け入れ、口先ばかりの警句を弄しながら閉じた世界で過ごすのかもしれませんが。それは常に自分が正義で、「間違いのない」楽な生き方ですが、いつまで経っても劇的な自己変

革は起こりません。自分と矛盾した他者の受容、つまり自己の再構築を通じて、人は成長すると考えているからです。それは実に難しいことです。私はまだ未熟ですから、受け入れ難いものに直面したときは「そういう考えもあるのか…」とか心の中で呟いて一旦立ち止まることにしています。そうやって私は他者に学び続け、自分の価値観を磨いて、磨いて、珠なるものとしていくのです。いずれ虎になるときまで。

これはアドバイスではなく1つの提示ですが、これが今後の大学生活の手蔓となれば幸いです。

皆様の大学生活がより良いものとなることを切に願っております。



医学部保健学科  
看護学専攻1年

村岡 さわ子

## 挑戦の4年間に

今年の春は、例年とは異なる社会状況であることに加えて、大学生活が始まるということで自分の身の回りの状況も一変し、大きな不安を抱えて迎えました。しかし、前期のオンライン授業を終えた今、振り返ると充実した学びができていたと感じます。また、前期の授業は、人と会う機会が少なかったことで、人とのつながりの大切さを改めて感じる良い機会になりました。

この数ヶ月、弘前大学で学んで感じたことは、様々な面で積極性が重要になるということです。大学では、与えられたものをこなすだけではなく、探究心を持って自分から学ぶ姿勢を持つことで、深め

られる部分が大きいのと思うからです。また、高校とは違い、周囲の人と学んでいる内容が違うことがあるため、周りに合わせる事が出来ず、自分で情報を集めていく力が必要になりました。その点でも積極性が必要になったと感じます。大学生活は自由な面が多いため、自分の積極性によって可能性の幅も広がると思いました。

大学生活ほど、自分の好きなことに費やすことが出来る時間というのはこれから先、多くはないと思います。そのため、いつでも挑戦の気持ちと、まずは一歩踏み出す勇気を持って、いろいろなことに挑戦していきたいです。

医学部保健学科  
作業療法学専攻1年

吉田 海結

## 弘前大学に入学して

日本でもコロナウイルスが流行してしまい、まさにコロナ禍での入学となりました。入学式も実施されず、県外から来たので初めてのひとり暮らしで、パソコンが苦手な中でリモート授業、学校で授業を受けることなく夏休みが始まるなど、初めての事だらけで不安でいっぱいでした。ですが、大学の各方面の方々が親切に色々なことに対応していただいたので、弘前大学に入ってよかったと安心しました。弘前大学は総合大学なので、自分の所属している学部学科以外の人も関わる機会があり、新たな発見をするな

ど自分の考え方が広がるということが魅力的だなと思っています。私はそこに惹かれて弘前大学に入りました。まだ普通の大学生活を送れていませんが、送れるようになった時には、多くの人と関わり充実した日々になりたいと思います。また、「四年間は長いようであつという間に過ぎる」と聞いたことがあります。うまくいくことばかりでなく大変なことも多いと思いますが、大学に入ったからには勉強はもちろん、アルバイトやサークルなどして卒業するときに後悔するようなことがないように過ごしたいです。



医学部  
心理支援科学科1年

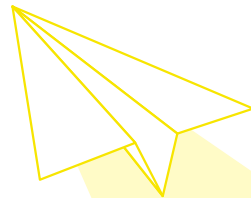
相澤 凌輔

## 大学生活を有意義に

今年は入学式もなく、授業も五月から始まるという異例の始まりを迎えたものの、早くも後期の授業が始まります。慣れないオンライン講義や新生活に戸惑いを感じながらも前期を終え、現在までの大学生活にはなんとか慣れてきました。しかし、私が大学でやりたいと思っていたことは実行できていません。それは、「たくさんの人と話してみる」と「いろいろな場所に行ってみる」ことです。これらのことは新型コロナの感染予防のためになかなか実行できていません。ですが、講義や実習などによってたくさんの人と話すことは後期から少しずつできるので

はないかと思っています。

私は大学生活の中で、より多くの考え方やもの見方に触れてみたいと考えています。大学生活はあつという間であるという話をよく耳にしますが、だからこそ、その短い時間の中で大学生だからできることにできるだけたくさん取り組んでいきたいです。弘前大学で過ごす最初の一年ももう残り半分ですが、今だからできることを考え積極的な行動ができるようになっていきたいです。また、前期では人とのつながりの重要性を実感したため、人とのつながりも大切にしていきたいです。



医学部保健学科  
看護学専攻2年  
村岡 咲季

## 主体的に学ぶ姿勢を

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れたでしょうか。様々な形の新生活に最初は戸惑いがあったかもしれません。前期は、新型コロナウイルスの影響で講義が遠隔で行われました。新天地での生活に、使い慣れていないパソコンを使っての授業。部活動やアルバイトも制限され、人間関係の構築が難しかったと思います。

前期、新入生のみなさんと同じ講義を受けていて思ったことがあります。それは、慣れない環境下でも自分から積極的に学びに行く意欲が高いということです。Teamsのチャット機能を用いて授業に参加

しようとしている姿が印象的で、それを見て私も頑張ろう、と思うことが多々ありました。

私が大学生活において重要視していることは、自分の専門分野に関して、確実に信頼できる知識をつけることです。今期は、講義に主体的に参加することの大切さを再確認することができました。後期からは対面授業も始めるため、同級生や上級生、多くの出会いがあります。4年間の出会いのなかで、自分の進む道を選択し、人生を豊かにしていきましょう。



医学部保健学科  
検査技術科学専攻3年  
櫻木 青

## 新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。厳しい受験生活を切り抜け、これまでの生活とは異なる大学生活も慣れ始めてきた頃でしょうか。私からこの大学で3年間生活していて、皆さんにお伝えしたいことは、“在学中に興味のあることは自分から行動を起こしてみる”ということです。

小、中、高と過ごしてきたこれまでの学生生活とは異なり、大学生活は、良くも悪くも自分の行動ですべてが決まってきます。ですから何もせず部屋でただだらしなくても、外でサークルや部活など、興味あることをやっても同じように時間は過ぎて

いきます。保健学科の講義日程は自由に選択できる場所も決して多いとは言えず、1年生からかなり忙しいとは思いますが、せっかくですから自分が気になっていることに首を突っ込んでみてはいかがでしょうか？きっと、この時に経験した成功や失敗は、これからの学生生活やその後の社会人生活で生きてくると思います。行動する前に悩んで後から後悔するより、やってみてから考えた方が、きっと楽しく生活できると思います！何か困ったことがあったら、いつでも力になりますので教えてください。充実した学生生活ができることを祈っております。

## 新しい自分の発見

新入生の皆さん、前期お疲れ様でした。前期は全てオンライン授業で思い描いていた大学生活とは違ったかもしれません。このような状況ではありますが、後期からも頑張っていきたいと思います。

皆さんは、これから先の大学生活でやりたいことはありますか。自分の将来のために勉強したい、新しいことに挑戦したい、友達を増やしたいなど様々なものではないでしょうか。また、まだやりたいことが見つからない人もいますか。私が1年生の頃にやりたいと思っていたことは人脈を広げることでした。弘前大学には5つの学部があり、

自分とは異なることに興味を持って勉強している人たちがたくさんいます。せっかくそのような環境があるのなら、自分から多くの人に関わってみようと思えました。色々な学部学科の同級生や先輩と知り合うことは、自分にはなかった考え方やものの見方に触れるチャンスになります。人との関わりは感性を豊かにし、自分を成長させてくれます。自分の殻に閉じこもらず、自分の置かれた環境を最大限活かして充実した大学生活を送ってください。

皆さんのこれからは楽しいものになるよう、心から願っています。

医学部保健学科  
作業療法学専攻2年  
杉澤 有瑠羽



理工学部  
物質創成化学科1年  
山谷 希世香

## はじめの一步

化学の原理を学び、パズルのピースがはまるような感覚にとらわれ、小学校での授業をきっかけに私は化学の虜になりました。生活の中の化学的な現象はどのような仕組みで発生するのか、原子や分子そのものはどのような性質を持つのかを深く学びたいと思い、弘前大学の受験を決意しました。

大学では高校でほとんど行えなかった化学実験に力を注ぎたいと思っています。そのためにはより深い化学知識や基礎的な技術が必須だと考えるので、教授や学友などから学び、吸収するように努力しています。

私は将来、自分もそうだったように化学の面白さ、身近さを生徒に伝え、かつ先進的な化学知識

を持った教師になりたいため、覚悟を決めて勉学に励みます。

またサークル活動を通し、高校の頃から続けている津軽三味線を地域の活性化につなげられるよう取り組んでいきたいです。

私は、県内外問わずに多くの人と交流を持てる点が大学の魅力の1つだと考えています。前期はオンライン授業となり、少し寂しくはありましたが、一層後期以降の対面授業に対して期待が高まっているので、今後とも大学に入学した目的を忘れることなく、たくさんの方々と交流し、人間的な成長も怠らないよう尽力したいです。



理工学部  
地球環境防災学科1年  
秋山 玲奈

## 弘前大学での学生生活

わたしたち新入生が弘前大学に入学して早くも前期の授業が終わりました。今年度は例年とは異なり、オンライン授業が行われました。オンライン授業が行われていく中で、今までよりも高度な内容を学ぶことが大変であると思うと同時に、自分が学びたい分野の専門的な部分を学んでいくことができることに楽しさを感じました。

わたしが地球環境防災学科に進学した理由は、自分の好きなことで人の役に立ちたいと思ったからです。ですが、現在、わたしはなりたい職業が決まっておらず、在学中に進みたい分野も明確には決まっていません。だからこそ様々なことを広く学び、自分

にできることは何かを考え、それを実行できる力を身につけていこうと思います。

そして、弘前大学での学生生活を通して、学生の本業である学習面の成長だけでなく、人としても成長したいと思っています。

わたしが生きていく上で大切にしたいことの一つに、人との関わり方があります。大学は夢や目標などが異なる人と出会うことができる場であると思っています。様々な人と関わっていく中で、相手の気持ちを理解し、今よりも思いやりを持って行動することを大事にしていきたいです。

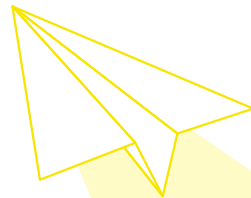


理工学部  
電子情報工学科1年  
竹浪 龍正

## 入学した意味

私が今まで勉強に励んできた理由は、将来に大きな野望や夢を持っていたからではない。地元で一番の国立大学である弘前大学の一員になるためであった。しかし、入学してから何をしていきたいかということを考えていなかったが故に、前期が終わってすぐに自分の目標によって悩まされた。「高校の自分と何か変わったのか?」「前期の授業で一体何を学んだのか?」「将来に役に立つようなことができたのか?」。オンライン授業だったので弘大生としての自覚が持てないというのも悩んだ理由だと思う。でも、第一は目標がないまま授業を受けていたから、様々

な疑問が浮かんだのだ。目標がなかったので、授業を受けていれば将来のために何か教わるだろうと能動的に考えていた。悩んでいる原因がはっきりした途端、将来の目標が決まり、希望に満ち溢れてきた。「自分は何にでもなれる!」ということが分かったからである。今は夏休みを有効活用して自分の興味のある分野を学んでいる。学んだことは何であれ自分の経験となり、知識となる。社会人になっても弘前大学の一員であったことに誇りを持てるように、これからはどんなものでも積極的に学び、自分の将来の幅を広げていきたいと考えている。



理工学部  
数物科学科3年  
中島 いずみ

## 大学生活

コロナで大変でしょうが、新入生の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。各々思い描いていたキャンパスライフではなく、多少なりとも落胆があると思います。直接会うことが少ないために、友達ができずに悩んでいる人も多いと思います。理不尽な情勢の中でとても不安な前期を過ごされたことでしょうか。本当に頑張って大学生をやったと思います。夏休み後にはなりますが、お疲れさまでした。

これからやっと大学生らしい生活になります。本来大学は自分たちが学ぼうという意思で入るものです。学びたいものは何も勉強だけではなく、ほかの

地域の人との交流であったり、アルバイトであったりを自分の責任で好きなように行うことができるのが大学の醍醐味と考えます。図書館で好きな勉強をしてもいいでしょうし、部活やサークル活動をしてもいい、バイトに明け暮れた生活をしてもいいのです。弘前はカフェで有名ですので、めぐって見てもよいでしょう。高校生とは違い大学生は大人ですから責任さえ取れば、何をしてもいいのです。自分の時間は当然自分が自由に使ってよいのですから。ぜひとも社会人になるときに後悔のないような大学生活を送ってください。



理工学部  
機械科学科3年  
田川 祐人

## 新入生に向けて

新入生の皆さん、大学に入って半年がたちました。大学生活にはもう慣れましたか。前期はコロナ禍で授業はオンラインになり、今後の大学生活に不安を抱えている方もいると思います。不安を抱えているのは皆同じです。だからあまり深く考えすぎずに目の前にあることをコツコツとやるべきだと思います。コロナが収束すればいろいろなことができるようになるのでそれまでは我慢です。

新入生に向けてのメッセージということで僕が皆さんに言いたいことは、とにかく挑戦することです。1、2年生の間は特にいろいろなことを経験し

てほしいです。コロナが収まったら留学する、友達と旅行に行く、バイトをする、ボランティア活動に参加してみる、筋トレを始めてみる、など些細なことでもいいのでやってみることが大事です。3、4年生になると、就職や進学のことを考え始め、挑戦する機会が減ってしまいます。だから時間に余裕のある今の時期にぜひいろいろなことにチャレンジしてみてください。まだコロナが収束していないので行動が制限されていますが、小さなことからやってみましょう。新入生の皆さん、ぜひ有意義な大学生活を送ってください！



理工学部  
自然エネルギー学科4年  
野呂 崇史

## 新たな日常からの第一歩

大学生活が始まりおおよそ半年が過ぎた新入生の皆さん、特殊な環境ではありますがこの生活に慣れてきたでしょうか。様々なイベントの中止は相次ぎ、外出は自粛せよという状況では、学生の本分である学業に専念せねばならなかったはずですが。そんな皆さんには大学生活での単位の心配は必要ないでしょう。

最後の学生生活である4年間、現在の日常が終わったときに何がしたいですか。勉学に励むことも、友人と呼べる人と過ごすことも旅行を楽しむこともバイトに勤しむこともいいでしょう。

机の上から飛び出して留学をしてみてもいいでしょう。私はマルタという国に短期留

学をしましたが、自分がどれほどの語学力なのかに気づけました。現地の方々との交流や食事、街並みは今も鮮明に思い出せます。

また、サークルに所属するのもいいでしょう。私は大道芸サークルに所属していましたが地域での催しへの参加や、遠征で他大学の方と交流を楽しみました。実際に活動を見ないとわからないこともあるので実際に足を運ぶことをお勧めします。

私の経験を例に出しましたが大学生活は自分が全力で挑戦し、熱中できることを見つけるのに最適です。どうか悔いのない4年間をお過ごしください。



農学生命科学部  
生物学科1年  
野戸 康生

## 大学生になって

弘前大学に入学し、もう前期が終了しました。オンライン授業により今までとは全く異なる状況ではありますが、サークル活動に参加したり、アルバイトを始めたりと高校生のときにイメージしていたような大学生活を送っているように感じます。大学の授業にも慣れ始め、授業ではそれぞれの先生がその分野の学問に特化しているため、教科書に書かれていない内容を参考資料やデータをもとにさらに詳しく説明していただき、様々な分野の学問を詳しく学ぶことができ、とても刺激的です。

大学に入学してとても強く感じたのは、自分で選択する機会が今までよりも多くなったことです。時

間割は自分で作ることができるため、前期の授業は自分が興味のあるものや、今まではあまり関心なかった分野の授業を取っていました。また、自由な時間をどう使うかも重要な選択だと感じています。私は、新しい趣味を探したり、アルバイトで稼いだお金で旅行に行きたいと思っています。最近では生物分野以外の本を読んだり、TOEICの勉強を始めました。

今後は、学科の先生方の研究室に伺い話を聞いてみたい、新しいことに挑戦して興味関心の幅を広げていけるよう積極的に動いていきたいです。



農学生命科学部  
分子生命科学科1年  
齋藤 弥葵

## 外出自粛と友達作り

新型コロナウイルスの影響により、高校生の時に思い描いていたものとはまるで異なる形での大学生活が始まってから、すでに半年以上が経過しました。

前期を振り返ると、一人暮らしやオンライン授業といった慣れない環境に対応しようと悪戦苦闘しているうちに、あっという間に時間が過ぎてしまったように感じられます。しかし、このように誰もが不安を感じる環境だからこそ、皆で情報を共有し、仲良くなることができたのだとも思っています。私自身が他学科、他学年に渡って様々な方に仲良くしていただいたのはもちろんのこと、先輩から、今年の1年生の仲の良

さを褒めていただけたことから、私以外の1年生の皆さんも、大変なことが多くありながらも、普段であればすれ違うだけの関係の人とも仲良くなれたのではないのでしょうか。

私の前期の反省として、予習を疎かにしていたことが挙げられます。そのため後期からは、今仲良くしてくれている人たちや、これから仲良くなる人たちと在学中にしかできないことをして目一杯楽しみつつも、自身の目標を見失わないよう、積極的に学習に励み、後悔のない学生生活を送りたいです。



農学生命科学部  
国際園芸農学科1年  
田澤 農志

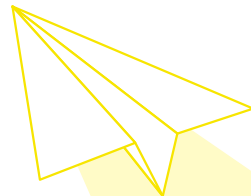
## 社会人として大学生活を送るにあたり

私は昨年転職し、就農のため青森県に戻ってきました。農業を始めるにあたり、技術や知識を実地で身に付けるのはもちろんですが、様々な面から農業について学んでみたいと思い社会人枠で弘前大学を受験し、今年度から農家兼大学生となりました。

高校生活から20数年のブランクを経て、ついに念願の大学生活が始まると思っていた矢先、新型コロナの影響により、他の新入生の皆さんも同様と思いますが、想像していたものとはだいぶ違った大学1年生前期の半年間となってしまいました。特に、昭和生まれの私としては講義は対面でやるものという固定観念をなかなか払しょくできず、PC画面越し

に先生の話聞いていても中々頭に入ってきませんでした。回を重ねるうちに徐々に慣れてきましたが、後期からは直接顔を合わせられるので、感染対策をしっかり取りつつ、積極的にコミュニケーションを図りたいと考えています。

農家としても大学生としても、1年生として正にスタートを切ったばかりです。仕事と勉強の両立は時に困難に直面することもあると思いますが、ひとつひとつの技術や知識をしっかりと学び、身に付けるために、時間を有効に使い日々の努力を積み重ねていこうと思います。



農学生命科学部  
生物学科4年  
中村 仁湖

## 新入生に向けてのメッセージ

皆さま、ご入学おめでとうございます。今年はコロナウイルスの影響で、学校で授業を受けられず、自宅でのリモート授業が多いことでしょう。また、アルバイトもできず、前期は家から出ることがかなり少なかったのではないのでしょうか。私は、このような時こそ、皆さん自身の積極性が大事だと思っています。つまり、家でただ何もすることなく過ごしたり、誰も見ていないからといって授業をあまり聞かなかったりするのはなく、参考書や論文を読んだり、グループワークでは積極的に発言することがこれからの大学生生活に必ず役に立つと思います。もちろん、家から出られないことで、友達を作

るのも難しくストレスが溜まり、やる気が出ないことも多いと思います。それは仕方がないことです。そのようなときは、今までやったことのないことを始めてみるのもいいかもしれません。例えば、手芸、料理、タイピング練習、プログラミングを学んでみるなど、家の中で出来る今までやったことがないことはたくさんあると思います。何かを始めてみることで気分転換になり、今まで知らなかった自身の一面を見ることもできるのではないのでしょうか。このようなご時世ですが、皆様が少しでも大学生生活を楽しめることを願っています。



農学生命科学部  
国際園芸農学科4年  
チャンティ  
タンハウ

## 新入生の皆さん、弘前大学へようこそ！

私は農学生命科学部国際園芸農学科のチャンティタンハウです。家畜飼養学研究室に所属し家畜について勉強しています。ベトナムの出身で日本へ留学してから今は5年目となり、早いもので弘大の4年生となりました。この時間を見返して色々なことが浮かんできました。私は大学について友達と話すときにいつも鼻が高いです。弘大の設備がいいとか授業の内容は面白くて応用性があるとか話す友達羨ましいと言ってきました。例えば、弘大の図書館で卒業論文に関する何十年前の資料を見つけました。その時にとても感動しました。それに、話せるエリア

やグループエリアなど色々スペースがあって便利です。一年生の時に授業の合間によく図書館に通ってました。一方、私は国際園芸農学科の学生なので色々な体験もしました。二年生の時に海外研修の授業でタイに行って日本やベトナムとの違いに驚きました。また、農場実習や専攻自習で農作業や動物の世話をやって農業を身近に感じています。最後に、新入生の皆さんに伝えたいのは勉強ももちろんですが友達を作ることも大事なことです。

大変なところがあると思いますがまず頑張ってください！



農学生命科学部  
分子生命科学科4年  
小野寺 杏仁

## 後悔のない4年間を

新入生の皆さん、大学の授業の雰囲気にはもう慣れたでしょうか？新型コロナウイルスにより、想像とは違った大学生活を送る方も多くいるでしょう。後期から対面の授業が始まり、新たな生活習慣の中、徐々に大学に慣れてくださることを願っています。

朝から夕方まで拘束されていた高校生活とは異なり、格段に自由な時間が増えたことと思います。バイト、サークル、インターン、自分からチャンスを掴み行動することさえできれば大学は多くのことを体験できる場です。何を選び、何に時間をかけるかの選択も自由で責任が伴います。そして何よりも学生の本分である学業を疎かにしないように心がけてく

ださい。私が入学する前に想像していたよりも大学はずっと学ぶことを必要とする場です。加えて、より多く真摯に勉強に向き合った人がさらに学ぶ機会と自由を与えられる場面が多くあることをどうか忘れないでください。卒業した時に「後悔のない大学生活を過ごせた」と言えるように目標を明確に持ち、頑張ってください。

最後になりますが、大学は様々な価値観を持った人と関わるができる稀有な場所でもあります。楽しいことを共有し、辛いことは相談できる友人がいるとより充実した生活を送れると思います。



香港のスーパーマーケットにてプロモーション活動、2016年11月（写真1）

# 研究室紹介

## 人文社会科学部 現代企業論研究室

教授 黄 孝 春

### はじめに

私は1991年弘前大学人文学部に赴任、日本経済論を担当してきました。2016年人文社会科学部への改組に伴い、いま現代企業論という看板に取り換えられています。もっともここ10数年個人の研究関心が地域の農業、とくにりんご産業に重きを置き、近年のゼミではりんご産業に関するテーマについて教育研究活動を続けています。

### 1 りんご輸出

もともと日本の総合商社を研究対

象にしてきたこともあり私はりんごの輸出商社の形態や行動等についての研究から着手しました。ゼミでは日本産りんごの輸出経路や海外消費者の嗜好、競争相手の商品特徴などについて学んだうえで、弘前大学グローバル人材育成プログラムなどを利用して上海、台北、香港など日本産りんごの輸出先の現地プロモーションに参加してきました（写真1）。国内消費の低迷などで海外に市場を求め、輸出産業化を目指すために、今後大都会の商社を経由するのではなく直接現地に乗り込み、パートナーの開拓と輸出ルートの確立、商品ブランドの形成、いわゆる

マーケットインの戦略が不可欠です。それを実現するために人材育成が早道と考えたからです。

今年度は東京の青果物の仲卸企業や弘前の大規模りんご農家とコラボして輸出先のバイヤーと消費者に青森県産りんごの魅力を伝えるプロジェクトに取り組みました。学生たちが生産者の顔がわかる動画を作成し、輸出商談の際にそのりんごの品質を説明することにより商談成立に直接貢献することを目標にしています。



## 2 GAPやクラブ制

今後、りんごの輸出拡大にGlobal G.A.P.の認証取得とクラブ制による生産販売システムの創設が重要と考えられます。

いま食の安全安心が世界的関心事となっています。GAPとは、その安全性を担保するためにISOのように生産過程において守られるべき基本的なルールが守られているかについて、第三者認証機関によって認証される制度です。欧米諸国の小売業者は商品の納入条件として生産者にGlobal G.A.P.の認証取得を必須条件として課すところが多く、すでにりんごの輸出産業化を実現しているニュージーランドではりんご農家の95%がGlobal G.A.P.の認証を取得しています。今後日本のりんご輸出先はもちろんのこと、日本国内の大手流通でもGAPを仕入基準として採用されることが予想されますので、生産者への啓蒙と指導が急務とされます。

一方、新品種の育成者権の保護活用を目的としてライセンス・ビジネスが注目されています。会員にしか栽培許諾を与えないため、新品種の生産販売、そして輸出を独占的に行うことができるというメリットが挙げられます。

ゼミでは、このような農業経営の

新しい手法について先進的事例を学びながら産地での応用可能性を探求しています。

## 3 高密度栽培

海外で日本産りんごに対する需要があるのにそれを満たすための供給能力不足がネックとなっています。後継者不足などで産地の栽培面積が年々減少していることが背景にあります。そこで単位面積あたりの生産量を上げる、つまり生産性の向上が課題となっています。

ゼミでは弘果総合研究所と共同でマルバ台栽培と高密度栽培の園地を調査し、経営コストとパフォーマンスに関する比較分析を行いました。高密度栽培の場合、早期結実、収量増加に加え、機械の導入や、作業しやすいなど労働節約のメリットがある一方、苗木の数がマルバ台栽培の10倍以上、また支柱などの施設に対する先行投資が大きいことがわかりました。青森で高密度栽培の導入には苗木の供給体制の再構築が急務と提案しています。

## 4 プレミアムりんごジュース

大手メーカーの輸入原料による果汁製品との差別化を図るために青森県内の果汁メーカーはストレー

トジュースを製造販売していますが、その高級化に課題が残っています。ゼミでは県内のある小規模加工企業と連携して千雪と紅の夢という二つのユニークな品種を原材料に搾汁したストレートジュースのブランディング化を試みています。学生たちは瓶の包装、ラベルのデザインやPOPなどの宣伝文句を考案し、弘前商工会議所主催の津軽の食と産業まつりに出店、またA-Factoryで試飲販売を行いました。プレミアム価格の商品をいかに消費者に説明し、よいものを高く売るためのノウハウについて試行錯誤を繰り返しながら心得ました(写真2)。

## おわりに

以上のように私の研究室ではりんご産業をめぐって様々な角度から教育研究を行っています。農業が成長産業だという考えもありますが、そんな生易しいものではないと思います。むしろ青森県の基幹産業といわれるりんご産業にも後継者不足、耕作地放棄等深刻な課題があり、そのまま放置すると、りんご産業もいずれ消滅に向かってしまうという危機意識が関係者の間に生まれています。いかに地域を支える基幹産業としての地位を維持させるか、それに携わる人材育成が決め手となります。学生諸君がりんごを通じて大学で学んだものをその後のキャリアにどう活かしていくことができるのか、常に肝に銘じながら、指導に当たっていきたいと思います。



津軽食と産業まつりに出店、2019年10月(写真2)



New Face

# はじめまして 新任教員 紹介

個性豊かな15名の教員が  
新たに着任いたしました



人文社会学部

文化財論講座

葉山 茂

4月に着任いたしました。文化資源学コースに所属して、博物館学を担当しています。専門は民俗学です。2011年の東北地方太平洋沖地震のあと、被災地域の文化財レスキュー活動に参加したのをきっかけに、博物館や大学が地域の人々と協働して文化的復旧や文化の再発見に関わる手法を研究しています。展示や情報発信だけでなく、地域に必要とされる博物館の多様な有り方を考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

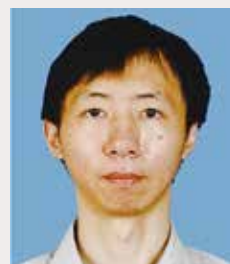


人文社会学部

コミュニケーション講座

新永 悠人

奄美大島（鹿児島県）と久高島（沖縄県）の方言を研究しています。方言を母語とする方に会うとすごい興味が湧きます。方言にはことばのしくみ（つまり文法）なんて無い、と思っている方がいるかもしれませんが、「よそ者」に真似されたときに違和感を覚えるのは、ご自身の方言に独自の文法があるからです。さまざまな言語・方言の文法から、人間の話す言語として何が可能で、何が不可能（未発見）かを知りたいと思っています。



人文社会学部

ビジネスマネジメント講座

林 彦櫻

林彦櫻（りん げんおう）と申します。中国人です。経営史を担当しております。4月生まれの方は子供の頃からなんとなく日本とゆかりが深いと感じてきました。今までは自営業、特に戦後日本の零細小売業史を研究してきました。次の研究テーマについてはまだ模索中ですが、しばらくは地域商業の歴史的研究を続けたいと考えております。地味な研究でも、何か世の中に貢献することができれば幸いです。



教育学研究科

教職実践専攻

天坂 文隆

4月1日から、実務家教員として教職大学院に勤務しております天坂文隆と申します。3月31日まで弘前市立第四中学校に勤務しておりました。コロナウイルス対応のため、遠隔での授業が続きましたが、やっと対面での授業も開始され、微力ではありますがこれまでの経験を生かし、教職大学院が目指す4つの力（協働力、課題探究力、自律的発展力、省察力）育成のため尽力したいと思います。よろしくお願いいたします。



教育学研究科

教職実践専攻

土岐 賢悟

このたび弘前市立第三大成小学校教頭から、教職大学院に着任いたしました。私は、小学校の特別支援学級で13年、弘前市教育委員会に指導主事として7年勤務し、特別支援教育、就学指導、インクルーシブ教育システムの構築を担当して参りました。この経験を生かし、共生社会を担う児童生徒を育てるための確かな実践力、省察力を身に付けた教員を養成するため、精一杯努力して参ります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



### 保健学研究科

総合リハビリテーション  
科学領域

## 宮原 資英

今年度から保健学研究科（医学部心理支援科学科）に就任しました。心と体について学んでいるうちに、人生の半分以上を海外で過ごしていました。前職は、弘前大学の交流協定校でもあるニュージーランド国のオタゴ大学で、24年間勤めました。雪国では、アメリカ合衆国の東北地方や、ノルウェーなどに住んだことがあります。弘前の皆さまと、津軽の地域に根ざした発達障害支援や、生涯学習支援などに取り組む所存です。

### 保健学研究科

総合リハビリテーション  
科学領域

## 玉井 康之

この4月から現職を拝命いたしました。これまで医療現場で精神療法やリエゾン・コンサルテーション、緩和ケア等、ひたすら臨床に従事してまいりました。まだ不慣れなことが多いので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



### 保健学研究科

総合リハビリテーション  
科学領域

## 小河 妙子

2020年4月に保健学研究科（医学部心理支援科学科）に着任しました、小河妙子（おがわたえこ）と申します。専門は認知心理学で、人間の記憶に言語知識がどのように表象されているのかを明らかにする研究を行っています。三重県出身で、前職では岐阜県にある私立大学で公認心理師の養成に携わっておりました。これまでの経験を活かし、教育・研究に尽力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



### 理工学研究科

物質創成化学コース

## 呉羽 拓真

令和2年4月に理工学研究科に着任いたしました。私達の生活には欠かせない高分子（プラスチック）材料を専門分野とし、合成から物性解析についての研究を進めています。ここ弘前は私の出身地である長野と似ているところが多く、すでに愛着が湧いており、弘前大学発のユニークな高分子材料を開発したいと考えています。学生の皆さんと協力し、楽しみながら教育・研究に取り組んで参る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



### 農学生命科学部

分子生命科学科

## 樋口 雄大

令和2年4月に農学生命科学部 分子生命科学科に着任いたしました、樋口 雄大と申します。専門は応用微生物学で、これまで主に木質・草本系バイオマスの分解に関わる微生物の研究に取り組んできました。今後は自身の研究をさらに発展させて、青森県の地域資源の利活用を目指した展開も行っていきたいと考えております。微力ながら、本学ならびに地域の発展に貢献できるよう精一杯取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



### 教育推進機構

教養教育開発実践センター

## 片桐 早苗

令和2年4月に教養教育開発実践センターに着任しました片桐早苗と申します。生まれも育ちも弘前で、弘前大学人文学部卒業です。これまで非常勤講師として教養教育の英語科目を担当してきました。私の授業では協同学習の理論を用い、自律した学習者を育てることを目標に実践を続けてきました。学生の皆さんの充実した学生生活にお役に立てるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



教育推進機構

教養教育開発実践センター

JAGNO REIK

教養教育開発実践センター、ヤグノ・ライクです。私はゲッティンゲン大学で歴史の博士号を取得し、仙台と東京で研究をしてきました。研究は、明治期に来日した重要なドイツ人を選び出し、彼らが推進した二国間の知的交流の実態を明らかにすることです。本学では学生皆さんの英会話力向上に積極的に貢献したいです。英語はグローバルな言語です。ですから私と一緒にアクセントを理解しましょう。どうぞよろしくお願いいたします。



教育推進機構

教育戦略室

紅林 亘

教育推進機構教育戦略室の紅林亘（くればやしわたる）です。数理・データサイエンス教育の実施準備のため着任しました。前職は、日本初のデータサイエンス学部を設置した滋賀大学です。前職ではデータ分析の実務に携わりましたので、その経験を生かして実践的な教育に取り組みます。また、研究者としての私のバックグラウンドは力学系理論などの応用数学で、力学系理論を応用した時系列データ分析に取り組んでいます。



COI研究推進機構

高橋 佳子

7月1日付で着任いたしました。新潟出身の私が、ご縁で青森県人になって30年になります。看護師、助産師、看護大学教員を経て、現在に至ります。本学大学院教育学研究科、および、医学研究科で学位も取得させていただきました。現職が畑違いのように見えるかもしれませんが、様々な出会いや、時々で生じた興味や課題を探求してきた結果、今があります。短命県返上のために、大学と地域、研究者を結ぶ役割を担っていきたいと思います。



## 弘前大学「教育に関する表彰式」を実施



8月7日（金）、「教育に関して優れた業績を上げた教員」の表彰式及び「成績優秀学生」の表彰式を行いました。

表彰式には、各学部等から推薦された教員7名全員、学生26名中21名が出席し、各学部長、研究科長及び附属病院長が見守る中、福田学長から一人ひとりに表彰状が授与されました。

また、福田学長から祝辞とともに、現状に満足することなく、今後の更なる活躍を期待する旨の励ましの言葉があり、これを受けて、教員を代表しては保健学研究科石川玲教授から、学生を代表しては農学生命科学部3年吉岡龍一さんから、大学への謝辞とこれからの飛躍を誓う決意が述べられました。



引き続き、成績優秀学生のうち最高学年次の学部学生と教職員による懇談会を行い、本学の教育をより良いものにするにあたり、意見交換を行いました。

新型コロナウイルス感染症に影響を受けた学生生活への支援等に対する感謝やこれまでの本学での学生生活において影響を受けたもの等への意見があり、今後の改善に活かされることが期待されます。



## 編集後記

いつからでしょうか、あれだけ暑かった日々が嘘のように今では朝晩の冷え込みに、なかなか寝床から出られず、毛布に包まりながら冬の到来を心配する自分がおります。

さて、10月1日、後期授業初日の弘大キャンパスは久しぶりに学生達で賑わいました。

新入生は、入学してから初めての対面授業となることから、キャンパス内をキョロキョロと不安そうに歩く姿が見られ、例年の春のような初々しさを感じておりました。

この度の学園だよりの特集「新学期を迎えて」では、新入生は新生活での不安に加え、手探り状態でのリモート授業を強いられたにもかかわらず、積極的・前向きなコメントばかりで、やっと始まる後期からの学

生活への期待が現れていました。一方、在学生からは、自分たちも不安であったであろうに、新入生を気遣うコメントが多くみられ、心温まりました。

私たち日本人は、戦後の復興、東日本大震災後のエネルギー技術の成長など、これまでも大打撃が起爆剤となって、大復活を遂げてきました。今回も、新型コロナウイルスにより大きな打撃を受けた一方、フーデリアバリー業種や情報通信など急速に発達・向上した技術があるように、日本人の「転んでも唯では起きない」精神に逞しさを感じています。

弘大生一人一人が、どうか、この人生の大打撃を起爆剤に変えて、素晴らしい人物となりますよう祈念申し上げます。

(工藤)

2019年(2019.4~2020.3)  
弘大生の病気・事故(ケガ)等による  
学生総合共済(生命共済)の  
給付件数・給付金額は

学生総合共済は  
弘大生の9割以上が  
加入している  
「たすけあい」の制度です。



学生総合共済マスコットキャラクター  
「タヌロー」

**291件 29,801,000円**でした。

【2019年4月~2020年3月の給付件数と給付金額】(円)

項目	学生総合共済	
	給付件数	給付金額
病気入院・手術	94	8,400,000
こころの早期対応	8	80,000
事故入院・手術	34	3,160,000
事故通院・固定具	135	3,661,000
後遺障害	0	0
本人死亡	1	1,000,000
父母・扶養者死亡	19	13,500,000
合計	291	29,801,000

### 【学生総合共済 給付事例】

- **アルバイト先で火傷。**  
両足にお湯がかかりⅡ度の火傷  
通院 30日 共済金 60,000円
- **夜、アパートで胸が苦しくなった**  
自然気胸 入院 14日  
手術 1回 共済金 190,000円
- **料理中にピーラーで指を切った。**  
通院 4日 共済金 8,000円
- **精神疾患**  
入院 132日 共済金 1,320,000円

病院にかかったら  
窓口へご相談を!



※詳しい保障内容は学生総合共済のパフレットご覧下さい。

学生総合共済についてのお問合せは生協店舗へ!

文京地区: たび shop TEL 0172-37-6480  
本町地区: 医学部店 FERIO TEL 0172-35-3275



学生委員会と大学生生活アドバイザーが  
学生総合共済の毎月の特徴的な給付内容を掲載し作成  
している「給付ボード」

### 『たすけあい奨学制度』(大学生協学業継続奨学制度)のお知らせ

前身の「奨学援助制度」の想いを継承し、その想いをさらに日本の大学・社会に大きく広げるために2019年12月に大学生協奨学財団を立ち上げました。このたすけあい奨学制度は扶養者を亡くされた学生に10万円を給付(返還不要)し、学業継続を応援する制度です。(給付にあたっては審査があります。)財源は組合員や全国の生協からの寄付、卒業生に返還される出資金からの寄付等で賄っています。学生総合共済、あわせておすすめしている各種保険、およびこのたすけあい奨学制度をトータルとして「大学生協のたすけあいの制度」として位置付けています。2019年10月から2020年7月までの弘前大学生協からの寄付は1,048,032円となっています。扶養者を亡くされた学生は誰でも応募できますが、この制度を知らない学生も多く、財源も十分とはいえないため、応募したすべての学生に給付できていない状況です。この制度を広く知っていただき、一人でも多くの学生に給付できるように、寄付等のご助力をお願いいたします。

### 大学が窓口になっている【学生教育研究災害傷害保険(学研災)】の給付状況(2019年度)

学研災の「加入」確認も生協店舗【たび shop】でできます!

学研災では・部活中のケガ(サッカー¥30,000・軟式テニス¥66,000・スキー¥98,000) 3件

・正課中のケガ…(体育¥94,000) 1件 **計 4件 288,000円**の 給付実績がありました。



弘前大学  
 学園だより

vol.199 / 2020年10月発行 題字：福田眞作 学長  
編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会  
委員長：増山 篤（教育委員会）  
委員：大倉 邦夫（人文社会科学部）  
吉川 和宏（教育学部）  
丹治 邦和（医学研究科）  
阿部由紀子（保健学研究科）  
小豆畑 敬（理工学研究科）  
曾我部 篤（農学生命科学部）  
工藤 政史（学生課）  
成田 知子（学生課）  
印刷：コロニー印刷

弘前大学  検索

トップページ▶弘前大学について▶広報▶刊行物・広報誌▶学園だより  
バックナンバーをご覧ください。

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail:jm3113@hirosaki-u.ac.jp